

健康主義を考える(社会学の立場から) Sociology of Healthism	
科目提供大学名	神戸女学院大学
担当教員	横田 恵子(文学部総合文化学科教授)
単位数	2単位
最大授業定員	54名
開講学期	前期(1時限:10:50~12:20、2時限:13:20~14:50 3時限:15:00~16:30)1日3講時 土曜日(6月23日~7月21日)
成績評価	(1)出席及び毎回のフィードバックシート(50%) (2)期末レポート(50%)
テキスト	指定しない
参考文献	適宜指定する
授業以外の学習方法	特になし
その他の特記事項	特になし
講義概要	現代日本社会では、健康であることは国民の義務とされ、国家、自治体そして企業はそれを総力で支援する。もちろん、心身健やかに生きる日常が「良いこと」であるのは、あるレベルでは間違っていない。しかし、心身の健康に関する「正しい知識」が大量に流通し、官民挙げての「予防の重要性」の喧伝が目立つ昨今の状況は、もはや政治的イデオロギーではないかとも思えてくる。 本講義では、「健康であること」を要請する現代日本社会が、(1)公衆衛生の規範とそれを実践する行動科学によって実現していること、(2)その正しさは、複雑で多様な私的生き方、価値規範のいくつかをマージナライズする問題を含んでいること、の2点を中心に据え、これらの問題を社会的見地から考える。
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(本講義全体の目的と見通しについて) 2. 公衆衛生のまなざし(1):「健康日本21」がめざす社会、人間観 3. (同上) 4. 公衆衛生のまなざし(2):感染症対策からみる日本社会 5. 公衆衛生の倫理学(1):行動科学的介入と社会 :正しさを相定するという事 6. (同上) 7. 公衆衛生の倫理学(2):規範的な問いかけを行うということ 8. (同上) 9. 自律とパターンリズム(1):「あなたには他人を不健康にする権利はない!？」 10. (同上) 11. 自律とパターンリズム(2):『うっかり』の倫理学はありうるか 12. (同上) 13. 依存とケアの正議論:ケアの相互性と正しさは両立するか 14. (同上) 15. まとめ